「龍江の盛土を考える講演会」資料（2019年12月14日）

清水川上流部を歩いて見た様子と、リニアのトンネル発生土置場に関わる地元説明会からの感想

Q は地元からの質問
A は JR 東海の説明
M は、松島のコメント

Q1：清水番入寺に計画した盛土の材粒は？
A1：トンネルを掘削して発生する残土で、砂状です。

Q2：清水川の川端に住み、毎日、川を見ている。5年前(平成26年、2014年)、25mほど崩れた。災害申請をしたが、未だに市では何もしてくれない。ふだんは優しい川だ。大雨時には茶色く濁って勢いよく流れてくる。
A2：護岸が崩れた事については私共ではなく管理者(飯田市)と相談してください。また、可能であれば協議させていただきます。
　大雨の時にはわれわれの造る沈砂池・調整池が役立ちます。10年や30年に1回は発生するであろう雨に対して安全である設計です。

M1：天龍川は200年確率(国による)です。清水川も同じ200年確率とみるべきです。今、清水川周辺で生活している人たちは200年に1回くらい発生するかも知れない豪雨は知りません。が、そのことを念頭に置かなければいけません。
　58年前に「三六災害」があって、飯田市では、今の山本インター付近で200戸が被災、王竜寺川の土石流で今宮地区が大きく埋まりました。300年前に「ひつじ満水」が発生して、野底川の土石流で城東地区が被災しています。この時、わたしの住む高森町では、大島川の土石流によって飯田線の市田駅のある出砂原(ださら)が誕生しました。200年に一回は発生するかも知れないという地変です。天竜川に面している竜東も竜西も運命共同体と考えるべきでしょう。

Q3：清水川下流の住民です。今日、初めてJR東海の計画を聞き、不安感が一気に高まりました。JR東海の処分地ありきの姿勢には強い不信感を覚えました。清水川は私の家の横を流れています。普段は少量の水が穏やかに流れる清流です。けれど、豪雨・台風時には流れが豹変し赤い濁流がうなり、大きな石が音を響かせ、わが家まで振

動させて迫ってきます。今日の説明による調整池など話にもなりません。都会人・知識人の空想論でしょう。嘘だと思うんだったら、私の家で暮らして見ませんか。
　今日の説明では、運搬ルートも説明されて、飯田市のリニア推進ロードマップも示されていて、あたかも残土候補地が決定したかの如く、これでは、不信感以上、怒りさえ覚えます。山あいの沢筋を埋め立てる基本の基本もわかっていない関係する人たちって同じ市民なんでしょうか。物事の筋道さえわかっていない上層の方たち、一方的、一辺倒の論理で、命にかかわる工事を押し付けないで下さい。

A3：JR東海の姿勢に対してのご意見かと重く受け止めさせていただきます。候補地については、地元の方から出たご意見が県を通してあがってきましたので、多面的な検討をさせていただいている段階です。当社が勝手に進めるというようなつもりは毛頭ございません。言葉足らずの点がございましたので補足させて頂きたいと思います。今後、いろんな検討を進めた段階で逐次説明させていただきますので改めてご理解を頂きたいと思っています。また様々な有識者、専門家から意見をお聞きし、われわれも土木の技術者として責任をもって設計をしていくつもりです。当社がやりたいからやるんだろうとの誤解や、当社が勝手に進めているというような事業ではございません。地域住民の声を反映していくべきご意見を伺って設計を決めていきます。

M2：リニアトンネル工事によって発生する残土問題は長野県主導です。残土処理候補地を地域(当地だったら、龍江地域づくり委員会)から県へ上げてもらう。県からJR東海へ知らせる、となっており、地域づくり委員長さんから、残土置場を決めれば、地域の活性化に役立つであろうと考えたと聞いている。当地区にとって役立つように努力したい、とお聞きしている。
　残土を置くことで、何等かの形で役に立つだろうと決めたものと推測したい。しかし、それは間違いであって、土砂災害が発生した時には、置いた残土が被害を倍増することになる、という自然現象の実態がわかっていない。これは無理もない。何故なら、地域づくり委員長の一生の中で清水川での土砂災害は起きていないからだ。また、自治会の役員の人たちもいまだ清水川で発生した土石流は未経験ですから、無理もないと思います。しかし、天竜川は200年確率だということが基本中の基本です。人は200歳まで生きれませんが、龍江村の歴史を孫子の代まで渡していかなければならない、これは重い課題です。目先の活性化でなく、龍江という歴史ある地域を孫子の代までおくりとどけるのが生きがいではないでしょうか。